講義名	教養特講Ⅱ（読書力）/読書力					授業形態	
担当教員	藤原　喜美子	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 ２時限				
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	LBA139

主題と概要

この講義の目的は、読書を通して本に慣れ親しみ、その本の要点を読み解く力を養うことにある。書籍からは様々な情報が私達に発信され、一冊の本には著者の色々な思いが込められている。
そこで、教科書や課題図書を題材にして、そこに記されている内容の中から、時間ごとにテーマを選び、選んだテーマの内容を話し合いながら講義を進める。

講義では、教科書や課題図書を皆で読み、「読む力」を養う練習を行う。また、そこから読み取れた事柄や自分の感想を文章にまとめ、「書く力」を養う。さらに、受講生同士の会話の時間を作り、「話す力」や「聞く力」を養う練習を行うことがある。このように、「読む」「書く」「話す」「聞く」ことを通して、「文章を読む」ということに対する読解力や向学心を育んでいきたい。

到達目標

学生が、教科書や課題図書等を読むことで本に慣れ親しみ、各自が興味のあるテーマを本の中から見つけ、興味を持った事柄について自分の感想や考えを述べることができるようになる。

提出課題

① 講義では毎回、小レポート（感想文や講義内容の確認）を提出してもらう。 小レポートの課題は、講義ごとに伝える。
② 学期末には、学期末レポート試験を実施する。学期末レポート課題の詳細は、12月前半に、講義中の説明ならびにRYUKA portal「キャンパスクロス」の掲示を通して指示する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

各回の講義に書いてもらう感想文の内容は、提出後に次の回の講義などで、読書に関する考え方として紹介する。

評価の基準

評価は、①各回の講義における小レポート（感想文や講義内容の確認15回分、60点）、②学期末レポート試験（40点）を総合して評価する。
評価の基準は、第１回の講義の時にシラバスの用紙を配付し、詳細を伝える。

履修にあたっての注意・助言他

1．【重要】第１回の講義から、教科書を使用する。
そのため、教科書は、教科書購入期間に必ず購入し、第１回の講義に必ず持参すること。
教科書は、齋藤孝『読み上手　書き上手』（ちくまプリマー新書076、筑摩書房、2008年2月発行、800円＋税）を使用する。

2．教科書の他に、「図書館に所蔵されている課題図書（文庫本または新書）」を利用する。
各時間の「課題図書の書名」は、第１回の講義の時、課題図書の書名を書いた用紙を配付し、説明する。
また、各回の講義の時にも、次週の課題図書の書名を紹介する。

3．事前に教科書『読み上手　書き上手』を読み、予習を必ずしておくこと。
教科書を読む時は、まず目次を見て、各自が興味のある項目から読んでもらいたい。

4．本に慣れ親しみ、積極的に読書する習慣を養えてもらいたい。

5．この講義は、教室で「受講生同士が会話をする」機会を設ける時間がある。

教科書

．『読み上手　書き上手』（ちくまプリマー新書076）．	齋藤孝	筑摩書房	880	9784480687784

参考図書

．なし．				

その他

＜プリント資料＞
プリント資料は、必要に応じて配布する。
＜参考文献＞
参考文献は、講義中に適宜紹介する。

授業計画

講義の進め方の詳細は、第１回の講義で説明する。

1．「読書力」とは
　読書に慣れ親しむということ
2．読書を考える①
　言葉を知る
3．読書を考える②
　伝える力を養う
4．読書を考える③
　記録と記憶の技術
5．読書を考える④
　読む技術
6．読書に親しむ①
　民俗学への招待(1)
7．読書に親しむ②
　民俗学への招待(2)
8．読書に親しむ③
　民俗学への招待(3)
9．読書に親しむ④
　日本文化のルーツを探す(1)
10．読書に親しむ⑤
　日本文化のルーツを探す(2)
11．内容を理解する①
　地域の特性
12．内容を理解する②
　日本の生業
13．内容を理解する③
　人間社会と自然のバランス
14．内容を理解する④
　日本の生活文化
15．まとめ
　読書を習慣化することの意味

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）	○	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

〈予習〉
次回の講義範囲の準備学習として、シラバスの授業計画に記してある授業のテーマを確認し、各自、教科書を読んでおく。また、大学の図書館に所蔵されている課題図書について、翌週までに興味のある項目を１つ選んで読む（約２時間）。
〈復習〉
講義終了時、その日の講義内容を確認しながら、内容に関わる小レポートや感想文を記入する。また、各自で、その日の講義の要点等を確認する（約２時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、全学共通科目の教養科目として、上記の主題と概要、到達目標の修得を通じて、本学のディプロマ・ポリシーのうち、特に次のような人材を育成することに貢献できる。
(2) 知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
・課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査、整理することができる(情報収集力)
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる（情報分析力）
・現象や事実のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や段取りを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)
(5) 仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材
・他者に働きかけ、協力を取りつけることができる
・他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めることができる
・自分と周囲の人々や物事との関係・現状を適切に把握し、自らの役割を的確に果たすことができる
・他者との間に相互に信頼し合う関係を築くことができる

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

この講義では、各回の前半は教科書等を用いた講義の形式で進める。また、受講生の会話の時間を設ける。各回の後半は、その日の講義のテーマや翌週のテーマの内容について、各自でレポートを作成する。

実務経験の有無及び活用

課題図書の中には、日本の歴史や文化に関わる書籍が含まれている。特にそのようなテーマでは、民俗学（生活文化史）に関わる現地調査や文化財保護業務などの実務経験を活用し、日本の地域の特色などを紹介し、授業を行う。

備考

一冊の本には、著者の色々な思いが詰まっている。教科書や課題図書を読む時は、まず各自が興味のある事柄を探してもらいたい。また、教科書には、本を読む時のコツが多く記されているので、自分が実践しやすいものを探してもらいたい。